

心に響く道德教育を通した心豊かな児童の育成 「もっといい自分になろう」  
～児童の共通体験やエピソード評価を手がかりとして～

南会津町立荒海小学校 (代表) 校長 星 裕次郎  
教諭 佐藤三和子

## 1 研究の趣旨

本研究は、本校の児童にとって道德的価値についての意識と実践のずれが大きい「生命尊重」「思いやり」「礼儀」の3つの価値に焦点をあて、道德教育の要としての道德の時間の中で、「もっといい自分になろう」という児童の「道德的判断力」や「道德的实践力」の向上を図り、「生きる力」の根幹となる「豊かな心」を育てることをねらいとした取り組みである。

本校ではこれまでの研究内容をふまえ、教育活動全体で行われる道德教育を補充・深化・統合する道德の時間の中で「道德的価値がどのような場で自分と関わっていたか。」「自分はその時どのように判断し、行動してきたか。」に気づかせるにはどうしたらよいか(価値の自覚)。さらに、教育活動全体での児童の道德的判断力を評価し、さらなる実践力の向上を図るためにはどのような評価をすべきか。この2つについて研究実践してきた。

## 2 研究の概要

1年次：「もっといい自分になろう」とする児童の思いを育てるために、道德の時間の指導法を中心とした研究

2年次：「家庭や地域社会」との連携のあり方についての研究

3年次：学校の教育活動全体を通じて行う道德教育を「補充・深化・統合」する要としての道德の時間に、児童の共通体験を取り入れた指導の充実

(1) 教育活動全体の中で、道德的価値に関わる行動面の把握

① 道德的価値に関わる共通体験での見取り

○ 教育活動全体における児童の共通体験から、「道德の時間」でねらう道德的価値について、学級の全児童の行動をエピソードで記述し累積して見取りを行った。

(2) 道德の時間での道德的価値に関わる共通体験の生かし方

① 導入段階で価値や資料への方向付けを図る工夫

② 展開場面(内省化)で価値への自覚を深める工夫

③ 終末場面での今後の実践意欲を高める工夫

(3) 教育活動全体の中で道德的实践力の高まりを評価する手立て(エピソード評価)

① 評価場面を具体的に設定した見取り

② 抽出児による継続した変容の見取り

## 3 成果と今後の課題

(1) 成果

① 教育活動全体の多様な場での児童の共通体験を道德の時間の中で生かすことにより、次のような成果が見られた。

○ 導入の段階において、児童の身近な生活の中にある道德的価値から、ねらいとする価値への方向付けがスムーズに図られた。

○ 展開の段階の内省化の場面において、ねらいとする価値に照らし合わせて自分たちの多様な生活場面に置き換えて振り返ることができ、道德的価値の自覚に広がりと深まりが見られた。

○ 終末の段階において、道德的価値に照らし合わせながら、自分たちの行動が意味づけされ、実践意欲につながった。

② 教育活動全体を通した道德的価値に関わる共通体験での見取りをエピソード形式で累積して質的に評価した。それにより、児童の道德性の傾向が分かり、個に応じた指導の手立てを考えることができた。さらに、教師の指導の改善にもつながった。

(2) 課題

① 教育活動全体における道德的価値の把握や、ねらいとする価値に関わる共通体験をさらに仕組んでいく必要がある。

② 道德の時間で補充・深化・統合された道德的価値に関わる判断力や実践力を高めていくために、エピソード評価のより効果的な活用の仕方を工夫しながら、授業後の共通体験での評価(見取り)や支援・指導を継続して行っていかなければならない。